

RZV500

1984年 / 市販車

ヤマハ発動機が世界 GP で戦っていたファクトリーマシン YZR500の技術を投入した、当時の「レーサーレプリカブーム」を象徴する一台。市販車で初となる、前後シリンダーにピストンリードバルブとクランクケースリードバルブという異なる吸入方式を採用した2ストローク・V4エンジンを搭載し、リアサスペンションをエンジンの下に水平に配置するなど、ヤマハ発動機のチャレンジスピリットが現れた技術が随所に採用されている。

ライバルメーカーが中型免許で乗れる400ccモデルを投入しても、当時非常に難易度の高かった限定解除免許が必要な500cc に拘った。そのため RZV500R に乗るために教習所に通う若者もいたと言われるほど、熱狂的なファンを生み出した。

RZV500R は2ストロークスポーツモデルの頂点として、今もなお多くの人々に語り継がれている。



COMMUNICATION
P L A Z A